

# SHOW HEY シネマールーム

★★★

## ブルーバック あの海を見ていた

2022年/オーストラリア映画  
配給：エスパース・サロウ/102分

2024（令和6）年1月2日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

2024-1

監督・脚本：ロバート・コノリー  
原作：ティム・ウィントン『ブルーバック』

出演：ミア・ワシコウスカ/ラダ・ミッチェル/イルサ・フォグ  
/アリエル・ドノヒュー/リズ・アレクサンダー

## 👁️👁️ みどころ

世のため、人のために弁護士を志し、1974年の大阪弁護士会への登録以降、約10年間公害訴訟に奔走した私としては、オーストラリアの海洋生物学者に成長したミア・ワシコウスカ扮するアビーの活躍は必見！

彼女の“原体験”は、8歳の時に、環境活動家の母親と共に潜ったロバーズヘッドという入江の海底だ。そこで出会ったペラ科の魚“ブルーバック”との縁の素晴らしさとその意味は？その大きさは？

美しい海を守れ！海のサンゴ礁を守れ！そんな環境保護の訴訟が勝訴することは少ないが、さて本作は？オーストラリアにこんな実話があったことにビックリ！四方を海に囲まれた日本でも、あなたの環境問題を考える素材として、そしてまた、子育て論の貴重な参考にしたものだ。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■オーストラリアの美しい海にも環境汚染の危険が！■□■

オーストラリア出身のハリウッドスターの代表は、何といっても私の大好きなニコール・キッドマンだが、オーストラリア出身のロバート・コノリー監督による、『渇きと偽り』（20年）（『シネマ51』44頁）は素晴らしいオーストラリア発のクライム・サスペンスだった。近時の日本列島では「水害」が多発しているが、島国ニッポンとは異なるオーストラリア大陸では、渇き（干ばつ）=The Dry が洩れらしい。したがって、同作の原作は『渇きと偽り』で、「ルーキー一家心中事件」と「エリー水死事件」との絡みを描いた原作を映画化したものだったが、その出来は素晴らしいものだった。

そんなロバート・コノリー監督が本作では一転してティム・ウィントンの原作を元に、オーストラリアの美しい海に育まれた母と娘の絆の物語を映画化！主演はミア・ワシコウスカだから、こりゃ必見！

“海洋生物学者”って一体ナニ？日本の大学なら、それはさしずめ、水産学部の教授だろう。ちなみに近時、“近大マグロ”で有名な近畿大学水産学部の教授たちの肩書きも、それ・・・？

## ■□■海洋生物学者とブルーバックとの絆に注目！■□■

本作冒頭、海の上に停泊させた船から、朝早くダイビングしてひと仕事(?)してきた海洋生物学者アビー(ミア・ワシコウスカ)の姿が映し出される。これを見ていると、海洋生物学者の仕事の大変さがよくわかる。

そんなアビーだったが、母親のドラ(リズ・アレクサンダー)が脳溢血で倒れたとの電話を受けたところから、物語は一転して、8歳の誕生日を迎えたアビー(アリエル・ドノヒュー)が環境活動家の母親ドラ(ラダ・ミッチェル)と共に、ロバーズヘッドという入江ではじめて海の底に潜り、ベラ科の巨大な魚“ブルーバック”と出会う物語にタイムスリップしていく。

私の子供時代の貴重ないくつかの原体験は今でも私の心の中にはっきり残っているが、アビーにとっては、この時の体験が自分の人生を決定づけるものになったようだ。しかし、ドラが倒れた今、アビーは生まれ育った西オーストラリアのロングボート・ベイに帰郷し、海を一望できる高台の実家で口が利けなくなったドラを世話しながら、少女時代の自分に思いを馳せていくことに・・・。

## ■□■“環境のための戦い”のあるべき姿は？■□■

私は1971年の誕生日に司法試験を目指したが、その時から、「世のため、人のため」と考えてきたから、1974年の弁護士登録後は公害訴訟に全力を傾注した。1960年代から70年代にかけての日本の公害は“ギルティ”と言われていたが、オーストラリアの美しい入江でも、リゾート開発計画が進む中で、美しい海の中にズカズカと立ち入り、魚やサンゴたちの生態系を破壊する行為が進められていたらしい。

女性ながら、ドラはその先頭に立って環境を破壊する開発計画に反対して頑張っていたが、開発業者のコステロ(エリック・トムソン)は自信満々！私の予想でも、しょせんドラたちの抵抗は長続きせず、一定の補償金をもらう形での妥協がせいぜい。そう思っていたが、事態の展開は意外にも・・・？

## ■□■“ブルーバック”についても、しっかりお勉強を！■□■

私は本作の原題、邦題とされている「ブルーバック」が何を意味するのかさっぱりわからなかったが、本作を鑑賞する中で、それがオーストラリア南部の水深5～65メートルの海域に生息するベラ科の一種で、サンゴ礁に生息する最大の硬骨魚類であることを知った。その体長は約1.7メートル、体重は約40キロというからビックリだ。

さらにその他、本作の公式ホームページには「ブルーバック」についての詳しい解説があるから、それを勉強すればあなたにもわか海洋生物学者の仲間入りすることができるだろう。

## ■□■昭和を彩った「昭和名曲」あれこれに注目！■□■

2023年から2024年にかけての年末年始のTVで、私は多くの歌番組を観て録画したが、さすがにNHKの紅白歌合戦はノーサンキュー。それに代わって「人生、歌がある 正月5時間スペシャル 第1夜 第2夜 第3夜」、「日本歌手協会歌謡祭 新春12時間スペシャル」、「昭和は輝いていた」、「その時、歌は流れた 時代を彩った昭和名曲」等にすっかりハマってしまった。私と同年代の歌手・谷村新司は2023年10月8日に亡くなったし、加山雄三、橋幸夫も既に引退宣言をした。武田鉄矢や堀内孝雄はなお頑張っているが、彼らの歌唱力は確実に落ちている。

そんな中、1月2日に放送された「中森明菜女神の熱唱」は楽しかったし、「歌える！青春のベストヒット～昭和が僕らの青春だった～」に次々と登場した青春ポップスターたちの若き日の映像は懐かしいものだ。若手女優だった工藤夕貴が今や、亡き父親・伊沢八郎の娘という肩書を全面に売り出して歌った『あゝ上野駅』を聴いていると思わず涙が出てくるのは、年を取ったせい。トップ歌手・五木ひろしが渾身の力で歌う谷村新司の名曲『昴』も大いに心打つものだった。

## ■□■3世代にわたるアビー役をしっかり確認！■□■

本作では①幼少期のアビー役のアリエル・ドノヒュー、②青年期のアビー役のイルサ・フォグ、③現在のアビー役のミア・ワシコウスカが登場する。また、ドラ役も①若き日のドラ役のリダ・ミッチェルと、②晩年期のドラ役のリズ・アレクサンダーが登場する。さらに、アビーを支え、良き理解者として同じ時代を共に生きた男ブリックスも、①現在のブリックス（クラレンス・ライアン）と、②青年期のブリックス（パドレア・ジャクソン）が登場するので、上記のような新旧多くの歌手が登場した歌番組と同じように、各キャラクターの“新旧”をしっかり対比したい。

人間は前向きに生きていくべきだから、基本的に立ち止まったり下を向いたりする必要はないのかもしれないが、本作を見ていると、そのことの大切さを痛感できる。あなたは、8歳の誕生日の時のアビーの“原体験”をどう考える？そしてまた、開発業者側の勇み足的な失敗があったとはいえ、ドラたちの環境破壊防止の活動が奇跡的な勝利を収めたことの意味をどう考える？

2024（令和6）年1月9日記